

エコアクション21

環境活動レポート

(対象期間: 2013年4月1日～2014年3月31日)



2014年7月30日

東京特殊車体株式会社

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境方針	2
3.	環境活動の実施体制	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5
5.	環境目標(中期3ヶ年計画).....	7
2012～2014年度		
6.	今年度の環境目標と実績、次年度の取り組み.....	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有无.....	10
8.	代表者による評価および見直し.....	10

1. 組織の概要

1. 事業所名
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名
取締役社長 八木 英樹
3. 所在地
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者
取締役総務部長 木村 英樹
連絡先 : TEL: 042-644-3517 E-Mail : hideki.kimura@toutoku.co.jp
5. 事業の規模
資本金 : 40,000 千円
年商額 : 2,603 百万円(2014 年 3 月期)
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 96 両 2014 年 3 月期))
従業員数 : 6 3 名 (2014.3.31 現在)
延床面積 : 5,401 m²
敷地面積 : 8,808 m²
6. 事業活動の内容
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 東京特殊車体株式会社
関連事業所 : なし
登録対象外 : なし
活 動 : 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境方針

環境方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達の推進
2. 環境保全活動を継続して実施するため、具体的な環境目標・活動計画を策定して取り組みます。また、環境目標は定期的にあるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境活動レポートとして公表します。

制定 2012年 1月 1日

東京特殊車体株式会社
取締役社長 八木 英樹

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

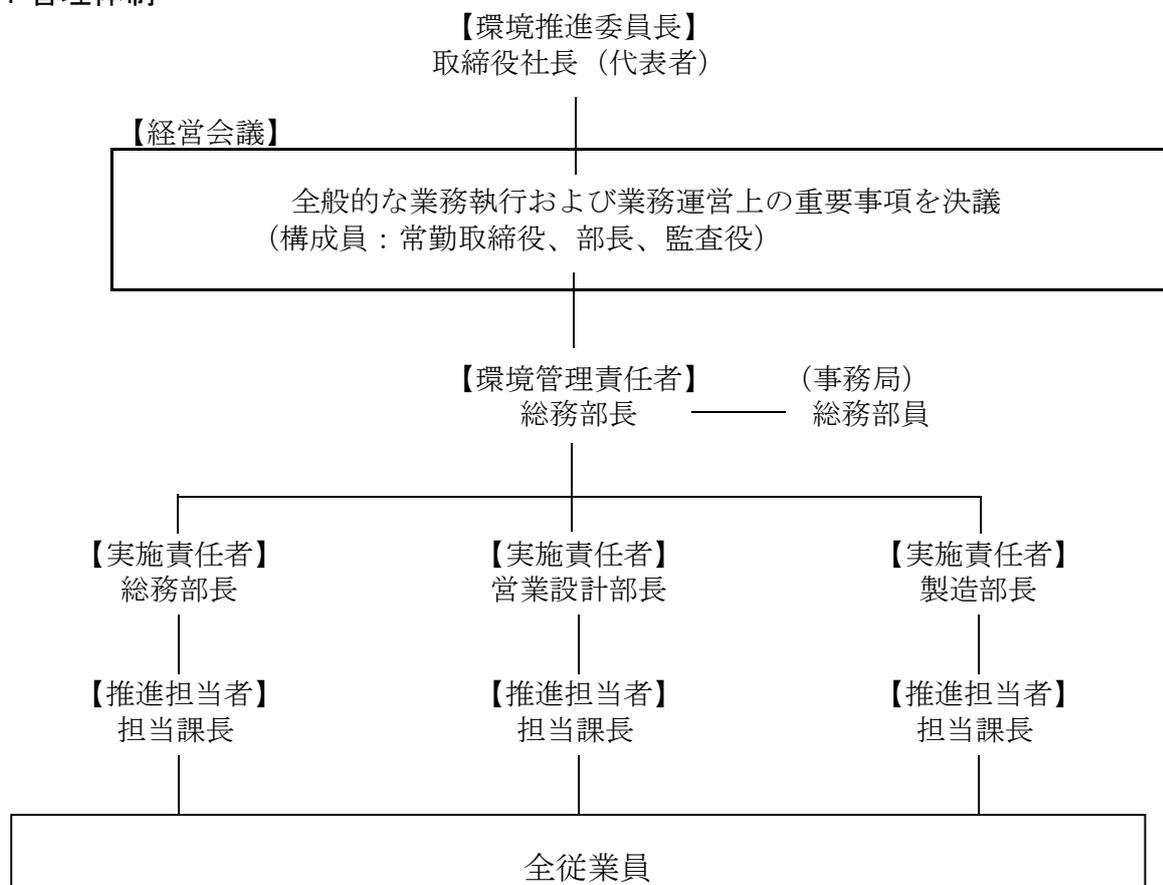
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組めます。

東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任	
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の推進 環境管理責任者の任命 環境活動の評価、見直し（毎年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の作成 経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 活動の構築、運用 各種会議体の開催 代表者への報告 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局運営 取組み状況の確認と改善 外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境責任者、運営のサポート 環境活動レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの取得、記録 啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の統括 推進担当者のフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の実務推進 環境活動の実施状況の報告 取組みに対する意見の集約、具申 	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 環境活動への参加、環境計画の実行 	

4. 過去3年間の環境負荷の状況

4.1 主要環境項目

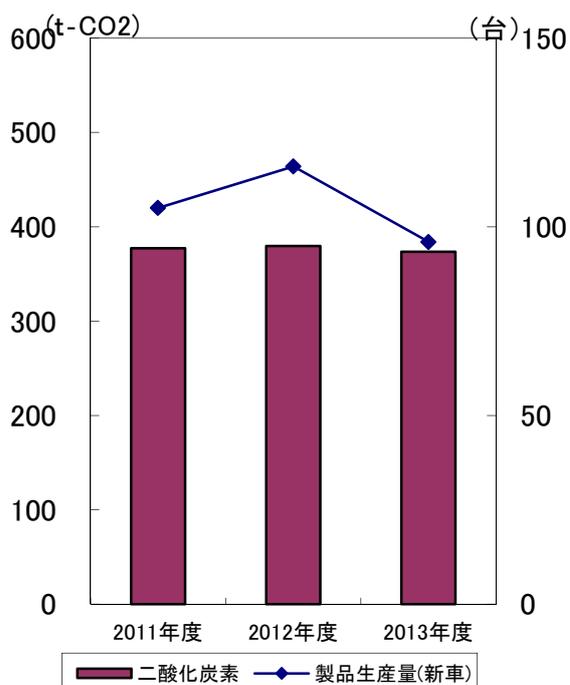
環境への負荷(指標及び種類)		単位	2011年度	2012年度	2013年度	
			2011.4-2012.3	2012.4-2013.3	2013.4-2014.3	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO ₂	377.1	379.7	373.4	
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	119	120	164
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	68	73	36
③-1 総排水量	下水道	m ³	1,480	1,377	1,098	
③-2 水使用量	上水	m ³	260	225	248	
	地下水	m ³	1,480	1,398	1,019	
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	3,496	3,896	2,258	
	都管理物質	kg	3,662	3,688	2,860	
	総排出量	kg	5,548	5,501	4,735	
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,500,210	5,723,109	5,464,886	
	化石燃料	MJ	2,857,299	2,747,502	2,552,824	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	241.2	292.2	269.0	
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	105	116	96	

※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

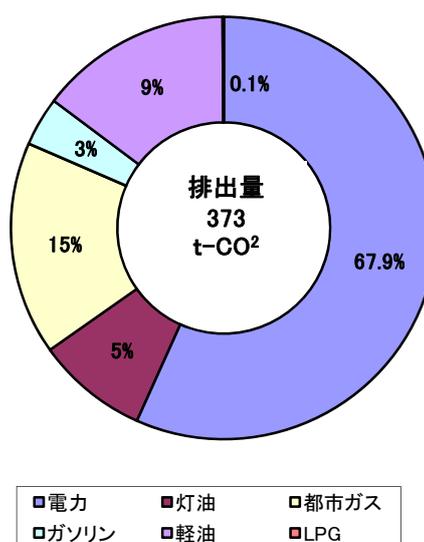
2012年度までは 0.375kg-CO₂/kWh

2013年度からは 0.377kg-CO₂/kWhで算出してます

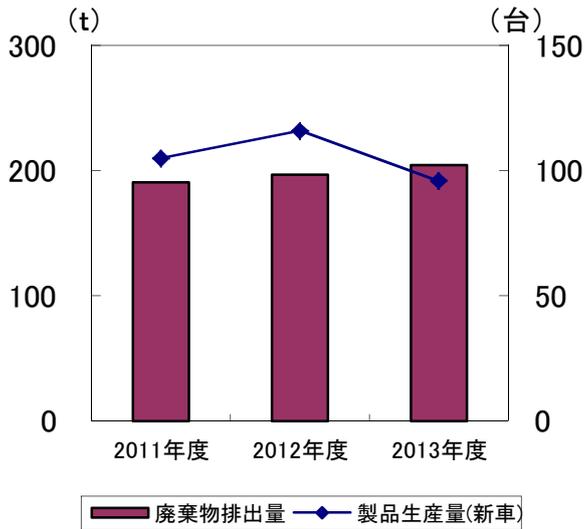
二酸化炭素排出量と生産量



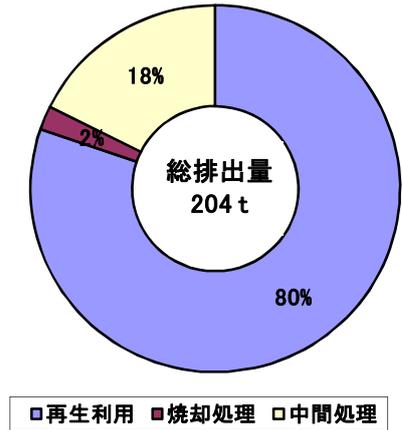
二酸化炭素排出量割合
2013年度



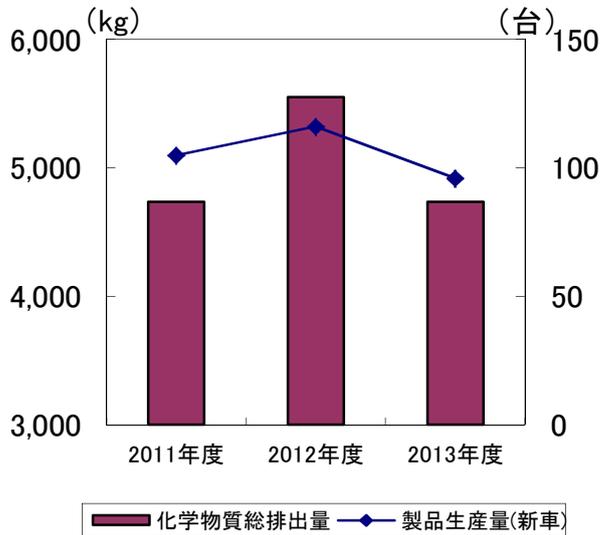
廃棄物排出量



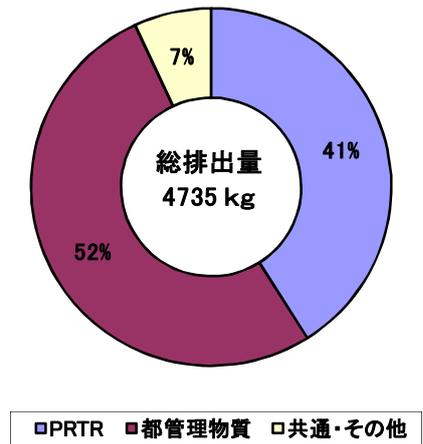
廃棄物排出量割合 2013年度



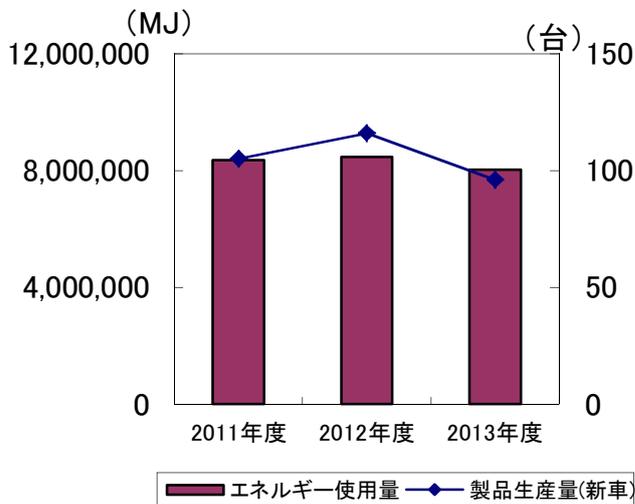
化学物質使用量



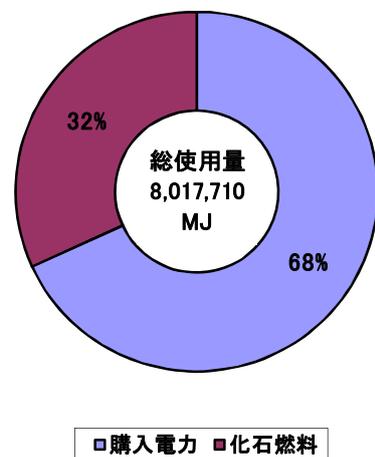
化学物質排出量割合 2013年度



エネルギー使用量



エネルギー使用量の割合 2013年度



5. 環境目標（中期3ヶ年計画）

2012年度～2014年度

環境中期目標の主要項目

2012年3月 制定

重点施策	目的	環境目標 環境活動計画			
		2012年度	2013年度	2014年度	
1. 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 ((t-CO ₂) /製造台数)	4.48	4.43	4.39
		使用電気量削減 (kWh/製造台数)	7,345.7	7,272.2	7,199.5
		都市ガス使用量削減 (m ³ /製造台数)	295.8	292.8	289.9
		灯油使用量削減 (ℓ/製造台数)	161.4	159.8	158.2
		水使用量削減 (m ³ /製造台数)	14.0	13.9	13.8
		化学物質使用量の削減 (kg/製造台数)	50.4	49.9	49.4
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃プラ量の削減 (中間委託業者 kg/製造台数)	411.0	406.9	402.8
2. 環境取組の推進・向上	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	現状把握	品目のリスト化	品目の増加
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参画 地域住民への工場公開、情報提供	工場公開実施	・工場公開 ・業界団体の新環境基準適合レベルの取得	工場公開継続
	2.3 その他	5S活動の定着 整理・整頓 作業スペースの確保・拡大 日常清掃の定着、分別の徹底	事務局主導の 5S委員会開催	5S活動の定着	5S活動メンバーの自主展開

6. 今年度の環境目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2013年4月～2014年3月のまとめ 製造台数96両			次年度の取り組み	
			実績	対目標	評価		
環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)/製造台数)	4.43 t	3.89 t (373.43 t/96)	87.8 %	○	東京都で実施している「省エネルギー診断」を受診し、効率の良い省資源対策を計画する
		使用電気量削減 (kWh/製造台数)	7,272.2 kWh	5,709.7 kWh (548,133kWh/96)	78.5 %	◎	
		都市ガス使用量削減 (m ³ /製造台数)	292.8 m ³	312.1 m ³ (29,966 m ³ /96)	106.6 %	×	本年度はシャシー需給が上期に逼迫し、弊社への供給が下期にずれ込み 冬期の1～3月に塗装工場がフル稼働 乾燥用ヒーター燃料が増加した。 次年度も引き続きシャシー逼迫が想定されるため、お客様への説明で受注確定 シャシー発注の前倒し(早期入場)に努める
		灯油使用量削減 (ℓ/製造台数)	159.8 ℓ	115.6 ℓ (11,100 ℓ/96)	72.3 %	◎	環境目標(158.2 ℓ/両)以下を目指す
		水使用量削減 (m ³ /製造台数)	13.9 m ³	13.2 m ³ (1,267 m ³ /96)	95.0 %	○	環境目標(13.8 m ³ /両)以下を目指す
		化学物質使用量の削減 (kg/製造台数)	49.9 kg	49.3 kg (4,735 kg/96)	98.8 %	○	塗料本体の負荷改善が進んでいる様で目標値を下回った。 次年度は環境目標を達成するよう、監視する
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃プラ量の削減 (kg/製造台数)	406.9 kg	378.6 kg (36,350kg/96)	93.0 %	○	本年度 歩留り余剰品を再利用して「車両のキズ防止」養生に使用し、排出量の削減を図ったところ 効果が見られたので、対象 範囲を拡大する

6. 今年度の環境目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2013年4月～2014年3月のまとめ 製造台数96両		次年度の取り組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	品目のリスト化	<p>名刺用に「全再生紙」を試用したが、良好な結果を得ず断念した</p> <p>総務、設計、製造の事務用品でグリーン購入を心掛けた</p>	△	<p>リストの項目、対象拡大</p> <p>購入量の少ない営業担当もグリーン購入の対象とする</p>
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参画	業界団体の新環境基準適合ラベルの取得	<p>「採血車」「検診車」「レントゲン車」「検査測定車」「競走馬輸送車」の5機種の「ゴールドラベル」を取得</p> <p>自動車業界全体の取組に環境委員として参加</p> <p>独自開発のLED灯具の試用</p>	◎	<p>所属する業界団体の「車体工業会」で取組んでいる「易解体性車体」に挑戦する</p> <p>環境委員会の委員として活動を継続する</p> <p>独自開発の「LED室内灯」により、「蛍光管不要、製造工数の削減、省エネ効果」が期待できるので標準装備化を検討する</p>
		地域住民への工場公開、情報提供	工場公開実施	10/20に工場公開を実施。雨天に関わらず100名弱の来場があった	○	お客様目線に立って工場公開の内容充実を図る
	2.3 社内取組	5S活動の定着 整理・整頓 作業スペースの確保・拡大 日常清掃の定着・分別の徹底	5S活動の定着	<p>5S委員会を12月以降定期開催(3月は休会)</p> <p>EA21の社内教育のため全従業員への講習会を実施</p> <p>シュレッダ紙の資源化を開始</p>	○	<p>5S委員会の定期開催の継続と、内容充実を検討するとともに、毎月の定期的「安全清掃」により整理整頓と併せ不安全カ所の改善する</p> <p>EA21の取り組みの社内周知を継続する</p> <p>「MSエコちゃん」によるシュレッダ紙の回収依頼、資源化を継続する</p>

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。関係機関等からの指摘もありません。また訴訟に関しても過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

本年度の環境目標はCO₂削減など概ね達成することができた。ただし、省エネルギーに関して、「都市ガス」消費は未達であった。これは製造工程が冬季に集中し、塗装の乾燥に多くのガスを消費したことによる。工程の平準化については、今後の課題としたい。

従来から、自動車業界全体で推進してきた環境への負担を最小限に抑える活動に対し、2013年9月に(一社)日本自動車車体工業会(車工会)の「環境負荷物質フリー宣言」を実施し、続いて、11月に新環境基準適合の「ゴールドラベル」を弊社主力の「レントゲン検診車」「移動採血車」「競走馬輸送車」など5機種に取得した。

車工会の環境委員会活動では、最終処分の解体作業に於ける省資源化、省力化の推進のため、車体構造の見直しを進めている。弊社に於いても検討を進めていきたい。

また、工場設備、工作機械等の省エネ化についても継続して更新を行っていく。その一環として、2014年度に工場全体の「省エネルギー診断」を受診し、省資源に有効な対策を行う計画である。

本システムの趣旨、精神を全従業員が理解し自発的に取り組んでいける様講習会を実施し、収集した環境データの集計が行える段階に至った。しかし データに基き活動を見直していく体制については、まだ改善の余地がある。